

---

# 朝陽

ロースト

---

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

朝陽

### 【Nコード】

N3997M

### 【作者名】

ロースト

### 【あらすじ】

死に行く者と生きながら死ぬ者。  
二人の運命の交差が終わる。朝陽が告げる”次の日”は優しく温かく、しかし残酷で僕らには眩しい。

## 朝陽

暗闇で生きてきた僕らには眩しすぎる陽が朝を告げる。

それが何もかもに諦めを促し、

誘いに導かれるようにすでに動かない身を、意思までも託し、委ねる。

力を持たせるよう、温かみを取り戻すよう、握り締めた指。

冷たく、動かそうとする意志さえも感じ取れないほどに固まっている。

諦め、仕方ないんだというように笑顔を見せる君。

僕は絶望に暮れ、何も言えず、

それでも信じたくなくて、抗うように凍った指先をさらに握る。

景色は涙で滲み、現実感が薄れている。

「生きる」ということは、いつかは「死ぬ」けれど、終わらないものなどなくて、不変も永遠もまやかし。

必ず、どこか目にみえなくても絶えず変わってゆき、変動も変化も真実。

わかってる。

だから、せめて、

君に声かける時間を、君を抱きしめる時間を、ほんの少しだけでいい。

別れるための時間を下さい。

あたしはもういかなければならないの。  
時が止まるはずはないから。

「生きたい」そんな些細な願いさえも、  
風に吹かれ、誰の耳にも届くことなく、消えていく。  
血が張り付いた喉はひりひりし、願望という餓えが残る。

この先、未来には何が待っているのだろう。  
どんな結果だろうと、受け入れなければならない。

二人の運命は平行線

決して一つになることはない。

あたしの道はすでに閉ざされ、硬く、暗く、先はない。

けれど生者の君には明るく、いくつもの先が用意されているから。  
振り返っては駄目。

立ち止まっては駄目。

君は強いから。

立ち尽くす。

君といった街は歪み、歪み、

君がいた記憶は僕の胸の中で溢れ出し、  
深く、深く、

悲しみの泉が出来上がってる。

僕はそこに溺れ、浸り、絡められ、  
未だ立ち上がることに出来ないんだ

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n3997m/>

---

朝陽

2010年10月9日04時40分発行